



◆ NO.4

雇用機会に見る欧州 IT

箕浦 大祐 (d_minoura@hotmail.com)

東日本電信電話(株) /
ケンブリッジ大学ジャッジ経営大学院 MBA コース

欧州の MBA は、1 年間のプログラムで修了する大学がほとんどである。ケンブリッジ MBA も 9 月に修士論文を提出したら修了であるため、本稿が掲載される頃には私もケンブリッジを去っている。すなわち、このコラムのお届けも今回が最後である。情けないことに四半期ごとの執筆がやっとで少ない回数の連載だったが、読んでいただいた方々に感謝したい。

MBA の授業や論文執筆のかたわら就職活動が続けてきたクラスメートたちは、新天地に旅立つ。日本の新卒採用制度とは異なり、欧米の企業は必要なときに目的に適した人員しか採用しないことが多い。そのため、MBA の学生に宛てた欧米企業の募集要項をよく見ると、その企業がどんなマネジメント戦略を持っているのか、そして、勤務地となる国や地域はどんな特徴を有するのかを垣間見ることができるともしばしば面白い。

特に IT 関連の企業は、人・モノ・お金の流れを変えて、既存ビジネスを改善したり、新規ビジネスチャンスを生み出し、今までにない価値を創出しようと努力しているので、上記のような戦略や拠点の意外性に驚かされることもある。以下では、雇用機会という視点を通して見た、欧州の IT まわりの動向をご紹介します。

◆ 人の動き

欧州には、出入国の簡素化を目的に、加盟国を 1 つの統一エリアとして国内移動扱いにするシェンゲン条約がある。現在の加盟国は、アイスランド、イタリア、オーストリア、オランダ、ギリシャ、スウェーデン、スペイン、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、フィンランド、フランス、ベルギー、ポルトガル、ルクセンブルグの 15 カ国である。

すなわち、これらの加盟国間では雇用上の国境はない。たとえば、私のイタリア人の友人はイタリアで取得した教員免許を持っているので、IELTS という英語力評価テストで一定水準以上の英語力を証明するだけで、英国でも教員になるチャンスがある。

しかし、各国には雇用の需要と供給に特色がある。IT 業界の場合、大雑把に言うと、ハードウェアはドイツ、フランス、英国。ソフトウェアはスペイン、ポルトガル、イタリアという傾向である。この傾向は、欧州各国で展開している IT コンサルティング企業の募集状況を見るとよく分かる。ドイツとフランスでは、自動車産業向けのシステム構築のためのシニア・コンサルタントのポジションが多い。一方で、スペインやポルトガル、イタリアでは、特定産業向けシステムのエキスパートよりも、むしろ .NET や JAVA、SAP など特定の技術やソフトウェアに精通したソフトウェアマネージャのポジションが多く見られる。ただし、これらの国では雇用状況が芳しくなく、募集数自体があまり多くない。英国、スイス、ベルギー、そしてスウェーデンでは製薬業界でのマネージャポジションが多く募集されているが、よく見ると、ベルギーとスウェーデンでは製品の検証や品質管理といったプロセス管理面でのコンサルティングが多いのに対し、英国とスイスは Medical Devices Product Design and Development Manager や Mechatronics Consultant という肩書きに見るような、ハードウェアに関連するポジションが多い。

ベルギーやルクセンブルグのように EU の中枢機関が集まっている国では、ファイナンス業や通信業が盛んであるため、これらの業界に精通したシニア・コンサルタントが求められている。それに伴って自国の労働人口規模では供給が追いつかないため、多目的の IT 技術マネージャの需要が非常に高い。しかしこれは、スペインなどの失業率が高い国からベルギーなどにマネージャレベルの労働力が大量に流れ込んでいるということは意味していないようだ。MBA の学生を見る限り、顧客企業と交渉しながらソリューションシステムを設計、構築していくために必要とされる英語力、技術力、コミュニケーション能力は非常に高度なレベルを要求されるため、外国人にとっては厳しい門となっている。

◆ 勤務地

どこの勤務地のマネージャを重点的に求めているか分析すると、企業の立地戦略が見えてくることもある。IT が発達してくると、要件さえ満たされていれば何も東京やロンドンにオフィスを構える必要はないことは、私が申し上げるまでもないだろう。

いきなりだが、英国の Inverclyde という場所をご存知の方はどれほどいるだろうか。グラスゴーの約 40km 西にある人口約 8.4 万人（2002 年現在）の地域である。かつては造船の街として栄えたが、現在は失業率が 5.4%（2004 年現在）というスコットランドではよく見る地域の 1 つにしか見えない。ところが Amazon は昨年 5 月、ここに配送センタの拠点を構えることに決めた。この募集要項を最初に見たときの私とクラスメートの会話は、「こんな辺鄙なところのマネージャにどれだけの応募があるのだろうか？」という内容だったことを覚えている。

しかし、ここは Silicon Glen と呼ばれるスコットランドの IT 企業拠点群の 1 つであり、その中でも IBM が 1951 年に製造拠点を構えたことに始まる、最も古い地域である。現在では、National Semiconductor が製造・設計センタを構え、T-Mobile（ドイツテレコムの子会社）がコールセンタを構えている。すなわち Inverclyde は、企業が製造拠点を構えるに足る物流経路が確立されており、コールセンタを構えるに足る通信網が整備されている場所と言える。

Amazon が配送センタの拠点到る要件は、まさにこの点である。注文をリアルタイムに受けられる通信網、そしてストックの搬入および商品の発送を支える物流経路が重要な要件である。しかもグラスゴー国際空港は、この空港の Web ページによれば、英国で主要な航空貨物空港であり、米国と欧州を結ぶ拠点だそうだから、海外発送にも都合がよい。さらに、地方政府は雇用機会創出に積極的であり、Amazon は配送センタの設立に際して 160 万ポンドの支援を受けることになった。まだまだ都会で遊びたい 30 歳前後の MBA の学生には魅力的とはいえない勤務地も、IT を駆使する企業の立地戦略の見地からは、ありあまる魅力が隠れている。

❖ 仕事内容

採用募集要項を見ただけでは、既存プロジェクトで前任者が辞めた穴を埋めるためだけのポジションなのか、新規重点プロジェクトの立ち上げなのか判断しづらい。一見興味を惹かない募集でも問い合わせで、どんなプロジェクト内容なのか聞かないと、やりがいのあるポジションに就くチャンスを逸するかもしれない。

Google の例を見てみよう。ケンブリッジ MBA に「Manager, Business Operations - Oxford」と題された募集要項が来た。内容を見ても「急速に増大するオペレーションのマネジメント」という感じの具体性に欠ける記述しかなく、これではよく分からない。しかし Google は、英国オックスフォードで昨年末から大きなプロジェクトを進め

ている。オックスフォード、ハーバード、スタンフォード、ミシガンの各大学図書館とニューヨーク公共図書館の蔵書をオンラインで閲覧できるようにしようとしている。

主に著作権上問題のない書籍のみとはいえ、オックスフォード大学がデジタル化を許可する蔵書 100 万冊の読み取りだけで 3 年のはかかると想定されており、プロジェクトすべての 1,500 万冊の読み取りが終わるのは 2015 年予定、110 万ポンドをかける一大プロジェクトである。オックスフォード大学では、以前から Electronic Library and Information System for Oxford というプロジェクト（ELISO プロジェクト）が進んでおり、Google が提案したプロジェクトは、ELISO プロジェクトの一環として歓迎された。

マネージャの仕事は多岐にわたる。ワークフロー策定と工程管理、日々のオペレーション管理、サプライヤである図書館や、データベース機器などのベンダとのコミュニケーション、米国側の 4 力所のプロジェクトチームとの連携、著作権などの法律を遵守しているかどうかの管理、そしてプロジェクトに必要な人員の採用も含まれる。

Google の創業者の 1 人、Larry Page は、「オンライン図書館は Google を創業する前からの夢だった」とプロジェクト発足の動機を語っている。ビジネスとしての目的は、有用なオンライン情報を増やすことで、検索 Web ページの利用価値をあげることにある点は容易に想像できるが、これ以外にも目的はある。まるごと 1 冊デジタル化することは著作権上問題のある書籍については、目次とあらましのみをデジタル化し、Amazon などの該当する書籍情報へのリンクを貼って、オンライン書店の広告媒体として利用する予定である。

このプロジェクトには反対勢力もある。米国大学出版協会と 125 の学術系の非営利出版者は、本当に著作権が保護されるのか懐疑的であり、オンラインで閲覧できるようになると人々はわざわざ本を買わなくなるのではないかと懸念している。一方で、意外な理由による反対者もいる。フランスは、オンラインで英語による情報が支配的になり、アングロ・サクソンの思想が蔓延する、と眉をひそめる。

このような Amazon や反対勢力などの利害関係者との調整もマネージャの仕事に含まれているようであり、なかなか大変そうである。しかし、このプロジェクトが成功裡に完了したときに世界中の人々が受ける恩恵も計り知れないだろうことを思えば、やりがいのあるポジションかもしれない。

（平成 17 年 9 月 8 日受付）